

# 広島大学学術情報リポジトリ

## Hiroshima University Institutional Repository

Title	英語で行う英語の授業づくり
Author(s)	又野, 陽子
Citation	語研ジャーナル , 18 : 53 - 59
Issue Date	2019-11
DOI	
Self DOI	
URL	<a href="https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00053066">https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00053066</a>
Right	This is not the published version. Please cite only the published version. この論文は出版社版ではありません。引用の際には出版社版をご確認、ご利用ください。
Relation	



## 英語で行う英語の授業づくり

又野 陽子

### 1. はじめに

語学教育研究所より2018年度外国語教育研究賞奨励賞をいただいた書籍『はじめてのオールイングリッシュ授業』(明治図書)は、「英語で授業」を支える英語指導本であり、授業をつくるためのさまざまな工夫や理論的な枠組、場面別基本フレーズ等を収めている。本稿においては、受賞に関連して、英語で行う授業内容の具体や日頃の授業の様子を一つの教材を例に取り上げて授業の流れに沿って紹介することとする。

### 2. 実践事例

#### 2. 1 授業規律

声の出し方、よい姿勢のあり方、道具の置き方、挙手の仕方等の授業規律に関しては、授業開きの際(もしくは中学校入学前に小中連携の一環で小学校を訪



問する機会があればそのとき)から継続して指導し、学習環境を整えるようにしている。「大きな声で、そろって、早く」(山家, 1964)をモットーとして生徒に伝えて意識させている(“Our class motto is ‘Speak loudly, quickly, and together.’”).

(中学校入学を前に、小学校への出張授業で。“Volunteer!”)

#### 2. 2 授業展開の具体

教材 *NEW HORIZON English Course 1 Unit 8 Part 3*

「知っているかをたずねよう」

基本文 That is Kota. Do you know him?

That is Deepa. Do you know her?

本時の流れは以下のとおりである。板書計画を中心とした授業の全体像につ

いては、板書型指導案(Appendix)に示している。

(1) あいさつ

リーダーの号令で授業を始め、授業の意気込みを唱和する。起立するときは全員が静かに素早く立つように促し集中力を醸成する。

L: Sit up straight. Let's begin our English lesson.  
 C: Yes!  
 L: Bow.  
 C: (礼をする) Let's do our best. I will respect myself, my teacher, and my classmates.  
 T: Please stand up.

T: Teacher, C: Class, L: Leader

(2) ウォーミング・アップ

本時で生徒が対話をする際に参考となる語彙をテンポよく発音していくことにより学習の場づくりをした。具体的には、絵カード(a tennis player, a soccer player, a baseball player, a figure skater, a singer, a musician, a model, an actor, an actress, an entertainer, an announcer, a writer)を黒板に提示し、“What's his/her job?”と尋ねながら職業に関する語彙を導入した。絵カードの順番は、まず生徒にとって馴染みのあるスポーツ、続いて冠詞が an になるもの、最後に本文で話題となる a writer とした。陰山・藤井(2006)付録のチャンツを使用して、速さを変えながらリズムに合わせて発音練習を行った。

(3) 基本文の復習

Mim-mem

T: (写真を提示) I like Ichiro. Do you know about him?  
 C: (#)  
 T: (2回繰り返すハンドジェスチャー。モデル。)  
 C: (###)  
 T: (決められたグループに指示)  
 G1: (#)  
 T: Class.  
 C: (#)

T: Teacher, C: Class, G: Group, #: Repetition

## Pattern practice

## Variation (Substitution/Conversion)

T: I know about him.

C: (#)

T: You.

C: (@)

T: Question.

C: (@)

T: Yes.

C: (@)

T: No.

C: (@)

T: Teacher, C: Class, #: Repetition, @: Attempted response

一定の速度を保ちつつ、スピーディーに多量に口頭で繰り返し練習させる。少ない操作の負荷量で自動的に操作できるレベルまで学習を進める。

## Dialog (T-C)

Mim-mem 及び Pattern practice を経て、写真を見ながら教師と生徒でやり取りを行う。コーラスで(「大きな声で、そろって、早く」)職業名まで説明させるため、ここでは生徒にとって馴染みのあるスポーツ選手(男女)を取り上げた。

写真 T: I like Ichiro. Do you know about him?

C: Yes, I do. He's a baseball player.

写真 T: I like Ishikawa Kasumi. Do you know about her?

C: Yes, I do. She's a table tennis player.

T: Teacher, C: Class

## Dialog (P-P)

好きな有名人についての対話という場面を設定し、既習の語句や文型を用いて生徒同士で対話をさせた。その際に、談話の流れをフローチャートで示し、生徒が参照できるようにした。対話の発表を行った P1、P2 に対して他の生徒から質問を促すことにより、さらに即興的なやり取りが生まれた(質問の例: Do you like baseball? /Do you like soccer, too? /Which do you like better,

baseball or soccer?)。

(対話例) P1: I like Mori Tomoya. Do you know about him?  
 P2: Yes, I do. He's a baseball player.  
 P1: Right. He's really talented.  
 P2: I think so, too.

P: Pupil

#### (4) 本文の内容理解(オーラル・インタラクション)

ピクチャーカードを示し、生徒とやり取りをしながら本文の内容や語彙の導入を行う。新出語句やキーワードはモデルに続いてリピートさせながら、発音、綴り、意味を確認していく(黒板にワードカード)。「モデル→列ごと→全体→最後にもう1人」という順番でテンポよく行い、ConcentrationとParticipation(山家, 1964)を確保する。

生徒への問いかけや説明の例

- (絵や写真を示して) Who is this? Where is he/she?
- (*Harry Potter*, *Winnie-the Pooh*, *Peter Rabbit* 等の本を示して)  
Do you know this book? /Whose book is this?
- (本と写真を示して) The writer is Beatrix Potter. Do you know about her?
- (国旗や地図を示して) What country is this?
- (写真、国旗、地図、本を示して) She was a writer in the U.K. In her books what did she show?
- (湖水地方の自然や動物の写真を示して) She showed the nature and animals of the Lake District in the U.K. Beatrix Potter's books are characterized by their nature and animals.
- Today's topic is asking about book recommendations.

#### (5) モデルリーディング I と黙読

生徒は、定規あて読み、指差し読みをしつつ、教師の音読またはCDの音声の速さでテキストの文字を追って聞きながら読んでいく。音声のスピードに合わせて必要な情報に下線等のしるしをつけていく。しるしをつけた箇所をペア、全体で確認する。ここで生徒はオーラル・インタラクションで得た内容を文字と結びつけることとなる。

## (6) 新出語句の確認と練習(フラッシュカード)

音読への橋渡しとして、音と文字を結びつけ、文字をスピーディーに読めるようにする。



## (7) 本文の音読

意味のまとまりごと、または1文ずつ、正しい発音・音調・リズムで教師が読んで聞かせ(モデルリーディングⅡ)、生徒はモデルに倣って音読する。さらに、テキスト全体を音読し、バズ・リーディングの後、個人読みにより生徒の読みを確認する。生徒達だけで声をそろえてテキスト全体を音読させ個人読みを補い、音読のまとめとする。リード・アンド・ルックアップの後、暗唱を行う。

## (8) まとめ(ライティング)

口頭作業を十分行った後で、ノートに対話を整理することにより、学習した内容や言語形式のまとめや再確認を行う。その際に、本文中の“Do you know any other good books?” → “How about *The Tale of Peter Rabbit*?” というやり取りは、Asking if someone knows about something (Requesting)→(Suggesting) という言語機能の連鎖であることにも注目させてノート整理を行う。

## (9) 振り返りシートの記入

準備、聞く姿勢、声の大きさ、積極的な発表の4つの観点で授業の取組を自己評価させ、その時間に学んだこと(Learning Outcome)を自分のことばでまとめる時間をとる。本時の振り返りにおいては、「Do you know ...? と尋ねることのできる」「だれなのかを言うだけでなく、他の情報も付け加えることで相手はよりわかりやすくなることもわかった」等のコメントが見られ、言語の働きやそのつながり、聞き手への配慮についての気づきが促されたことがうかがえた。

## (10)あいさつ

授業の終わりを告げ、生徒に本時における自身の取組をたずねる。続けて、リーダーの生徒による号令で授業を終える。

T: That's all for today. Goodbye, everyone.

C: Goodbye, Ms. Matano.

T: Did you have a good time?

C: We did!

L: Let's end our English lesson.

C: Yes!

L: Bow.

C: (礼をする) Thank you. See you.

T: Teacher, C: Class, L: Leader

## 3. おわりに

理論に基づき、ことばの教育の本質を見据えた授業を展開すること、生徒一人一人を大切に、生徒に寄り添いながら生徒との信頼関係の中で丁寧な指導を積み重ねること、集中力を持たせてテンポよく生徒の多量の英語を導く授業の仕組みをつくることが授業を支える礎となっている。生徒の言葉「ぼくの一番好きな時間は英語でした」「ことばの大切さなどがよくわかり楽しかったです」…を宝として、これからも、よい授業をつくっていくために研究を続けていきたい。

(2018年度外国語教育研究賞(奨励賞)受賞者/山口県山口市立鴻南中学校)

## 【参考文献】

- 陰山英男・藤井弘之(2006).『陰山英男&藤井弘之の反復 練習英語暗唱ノート』東京：株式会社アルク.
- 笠島準一・関典明他.(2017). *NEW HORIZON English Course 1*. 東京：東京書籍株式会社.
- 又野陽子(2017).『中学校英語サポート BOOKS はじめてのオールイングリッシュ授業—今日から使える基本フレーズ&活動アイデア—』東京：明治図書出版株式会社.
- 山家保.(1964).『新しい英語教育』財団法人英語教育協議会. 東京：株式会社学習研究社.

Appendix 板書型指導案 (英語科 1年 Unit 8 Part 3 知っているかをたずねよう)

指導者 又野陽子 (Ph.D.)

1 学習目標  
 人や物語の主人公などについて、「彼を」「彼女を」などと言いかえながら対話を続けることができる。  
 2 指導上の留意点  
 (1) テキスト (人の紹介) に関連する語彙をリズムに乗せて練習することにより、基本文の対話 (復習) にスムーズにつなげたい。  
 (2) 英文をスピーディーに多量に反復練習することにより生徒の発話量を増やし基本文を習得させたい。  
 (3) 教室における学習と日常生活における自由話とを有機的につなぐ対話を取り入れる。  
 (4) 教師と生徒の間でインタラク션을図りながら、教材文の内容を再構築していく。絵や写真も効果的に使用し、キーワードや新出語句を導入する。  
 (5) フラッシュカードでスピーディーに新出語句を発音させることにより発音と綴りを結び付け、リーディングへの橋渡しとしたい。  
 (6) Choral reading, Backward build-up, Buzz reading, Individual reading, Read and look up など多様な練習を取り入れることにより多量の練習を行うようにする。  
 (7) 本時の学習内容である知っているかをたずねたり答えたりする文をノートに書くことにより、学習した内容や言語形式のまとめや再確認を行うように支援する。

Monday, December 11 pp.88-89 知っているかをたずねる、答える

<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	writer the U.K. famous
<u>Harry Potter</u>	<u>The Tale of Peter Rabbit</u>	<u>Beatrix Potter</u>	1. nature 2. animals
<input type="text"/>			naughty
<u>Winnie-the Pooh</u>			

本時の流れ

- あいさつ
- ウォーミング・アップ (テキスト (人の紹介) に関連する語彙 (Jazz chants))
- 基本文の復習
  - Mim-mem
  - Pattern practice
- Variation (Substitution/Conversion)
- Dialogs
- 本文の内容理解 (オーラル・インタラクション)
- 新出語句の確認と練習 (フラッシュカード)
- 本文の音読
- Model reading/Choral reading/Buzz reading/Individual reading/Read and look up
- まとめ (Writing)